

令和二年度

(2020 年度)

ダイバーシティ研究センター
報告書

令和 3 年 3 月

ダイバーシティ研究センター

内容

1. ダイバーシティ研究センター	3
a. はじめに	3
b. 事業内容	4
c. センター組織図	5
d. ダイバーシティ研究センター沿革	5
e. 運営委員会.....	6
f. 令和元年度構成員.....	6
2. 令和元年度活動報告.....	7
a. ダイバーシティ・インクルージョンに関する研究の実施.....	7
b. ダイバーシティ・インクルージョンの教育.....	9
c. 学内外におけるダイバーシティ・インクルージョンの推進	10
3. 令和元年度研究業績一覧	13

1. ダイバーシティ研究センター

a. はじめに

日本社会は、性別、国籍、民族、年齢などの属性や背景にかかわらず、誰もがその能力を最大限に発揮し、活躍できる社会を目指している。同時に、各分野で国際的な競争力を高めるために、これまで以上の新たな着想や変革が求められている。これらの課題に応えるには、多数派のライフスタイルや価値観を標準とした従来の制度や組織運営を改め、多様な価値観や文化背景をもつ人々が、それぞれにその個性と能力を活かし、革新的発想を生み出せるような仕組みづくりが必要である。

わが国の多くの企業等では、ダイバーシティを、「ワークライフバランスや障がい者雇用のように、マイノリティとされる人たちも雇用し、働ける制度をつくること」と解釈するに留まっており、福利厚生や企業の社会的責任と見なす場合が（現状では）多い。実際、多様な働き方を可能にするための制度づくりすら十分ではないのが日本の現状であるため、この視点も重要ではあるが、本来目指すべき状態とは、属性だけでなく価値観や知識など深層の多様性にも着目し、その多様性を積極的に受け入れ、活かすことによって、組織の生産性や革新に結びつけることである。この理念と戦略を **Diversity and Inclusion**（以下、ダイバーシティ・インクルージョン）という。しかし、このようなダイバーシティ・インクルージョンの実現については、世界的に見ても、学術的に探究されるべき課題が多く残っている。そもそも属性の多様性は、生産性ではなく葛藤や対立を促進し、メンバーのモチベーションを低下させる可能性も大きい。「生産性や革新」と「葛藤や対立」を分ける要因やそれを生産的な方向に向けるための介入方法など、学術的に解明すべき点は多い。しかし、特に日本では、ジェンダーや移民問題など、個別のマイノリティ集団に関する研究者は多いものの、「一つの組織や集団内で多様な属性を持つ人々がどのように革新的な業績を生み出し得るか」を実証的に研究する研究者は相対的に少なく、決して研究の盛んな領域とは言えない。また、ダイバーシティ・インクルージョン研究は主に経営学の領域において「企業従業員のダイバーシティ」に限定した研究が行われており、大学や学術界におけるダイバーシティに注目した研究は見当たらない。

広島大学は、男女共同参画、障がい学生支援（アクセシビリティセンター）、及び特別支援教育の分野で、日本の中でも先進的な業績を挙げてきた。この業績を基盤として広島大学が進むべき次のステップは、ダイバーシティ・インクルージョン推進の拠点となること、及び「メンバーの多様化から生じる問題に対処し、その多様性を生産性や革新的業績に結び付けられるような制度や風土を創出する知識とスキル」を備えた人材を育成することである。しかし、この課題は学内に現存する組織（男女共同参画推進室やアクセシビリティセンターなど）が扱える範囲を超えており、新たな学際的研究組織が必要である。このような経緯から、平成 28 年 4 月ダイバーシティ研究センターが設立された。

広島大学は、男女共同参画、障がい学生支援（アクセシビリティセンター）、特別支援教育の分野で、日本でも先進的な業績を挙げている。この業績を基盤として、広島大学が進むべき次のステップは、

- ① ダイバーシティ・インクルージョン推進の拠点となること（多様な価値観や文化背景、個性をもった人々がともに生きる社会で、一人一人の個性を活かし、その能力を発揮できるような組織・チームを管理運営するスキルやリーダーシップに関する研究を行う）
- ② そうしたスキルやリーダーシップ能力をもった人材を育成することである。

このステップのために、新たな学際的研究組織として、ダイバーシティ研究センターが設立された。

ダイバーシティ・アンド・インクルージョン

ダイバーシティ・アンド・インクルージョンとは日本では、ワークライフバランスや障がい者雇用のように、「マイノリティとされる人たちも雇用し働ける制度をつくること」を目指した動きが始まったばかりである。しかし本来は、単に「多様な人々が働ける環境を整える」ことに留まらず、価値観や知識など深層の多様性にも着目した上で、その多様性を積極的に受け入れ、活かすことによって、組織の生産性や革新に結びつけることを目指す必要がある。この理念と戦略を **Diversity and Inclusion**（ダイバーシティ・アンド・インクルージョン）と言う。

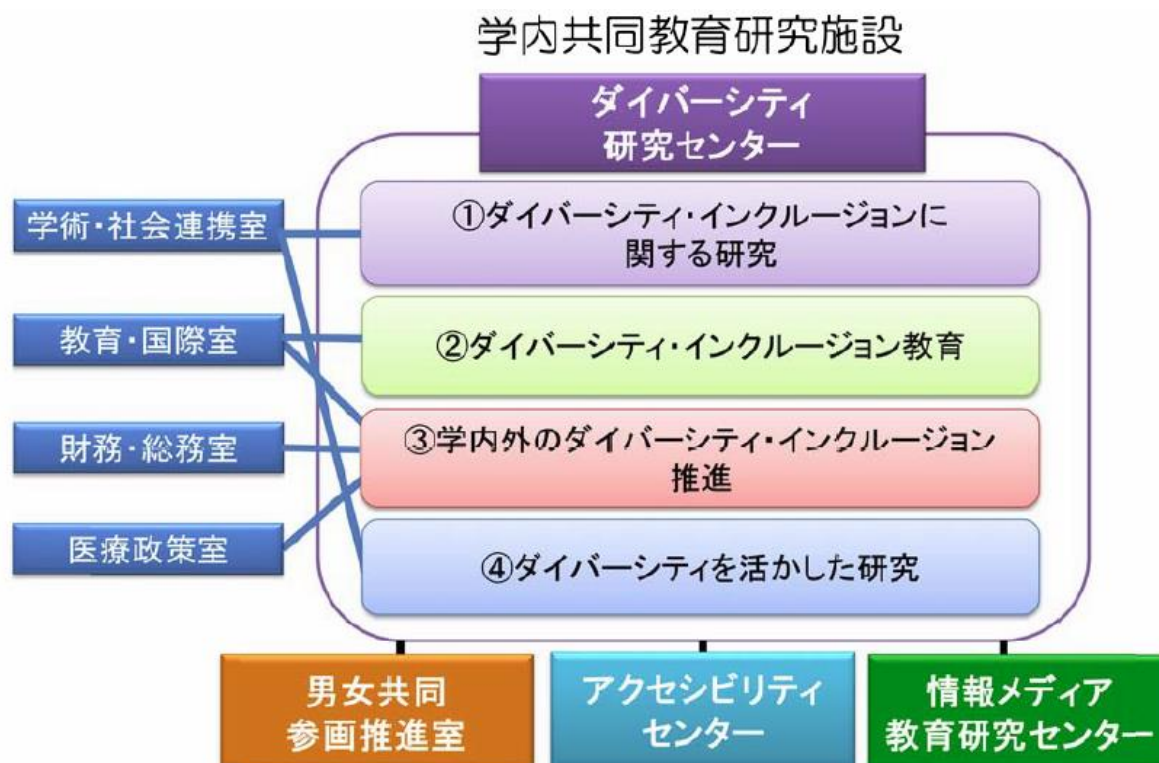
b. 事業内容

以下の内容を通じて、広島大学がダイバーシティ・アンド・インクルージョン推進の拠点となること、及び「メンバーの多様化から生じる問題に対処し、その多様性を生産性や革新的業績に結びつけられるような制度や風土を創出する知識とスキル」を備えた人材を育成することを目的とする。

<取り組み事業の概要>

1. ダイバーシティ・アンド・インクルージョンに関する学際的研究を行う
2. ダイバーシティ・アンド・インクルージョンのための知識とスキルを学生に教育する
3. 公開講座や企業向け研修など学内外におけるダイバーシティ・アンド・インクルージョンの推進と問題解決に貢献する
4. ダイバーシティを活かして創造的な研究を生み出す実践の場を提供する

c. センター組織図



d. ダイバーシティ研究センター沿革

- 平成 28 年 4 月 ダイバーシティ研究センター開設（センター長 坂田桐子教授）
- 平成 29 年 1 月 北梶陽子助教が着任
- 平成 29 年 5 月 大池真知子教授が着任
- 平成 29 年 7 月 関西大学酒井千絵准教授、高知大学佐藤洋子助教が連携研究者として加入
- 平成 29 年 9 月 高知工科大学上條良夫教授が連携研究者として加入
- 平成 30 年 4 月 大池真知子教授がセンター長に就任
- 平成 30 年 10 月 相馬敏彦准教授、中島健一郎准教授が協力教員として加入
- 平成 30 年 12 月 広島修道大学河口和也教授、大阪市立大学安達菜穂子研究員が連携研究者として加入
- 令和元年 8 月 櫻井里穂准教授、恒松直美准教授、デラコルダ川島ティンカ講師、長坂格准教授、中山亜紀子准教授が協力教員として加入
- 令和元年 9 月 山本幹雄准教授、坂本晶子助教、新本万里子教育研究推進員が協力教員として加入
- 令和 2 年 3 月 中村平教授が協力教員として加入
- 令和 2 年 9 月 金宰煜講師が協力教員として加入
- 令和 2 年 10 月 櫻井里穂准教授が着任、ペンシルバニア州立大学 Gerald LeTendre 教授、上智大学杉村美紀教授が特別顧問に就任
- 令和 3 年 3 月 白川俊之准教授が協力教員として加入

e. 運営委員会

氏名	所属・職名
中井智司	先進理工系科学研究科 教授
藤井万紀子	医系科学研究科 教授
橋本俊也	統合生命科学研究科 准教授
仲 一仁	原爆放射線医科学研究所 准教授
西村浩二	情報メディア教育研究センター（同センター長） 教授
服巻 豊	人間社会科学研究科（アクセシビリティセンター長） 教授
坂田桐子	人間社会科学研究科 教授（社会心理学、ダイバーシティ、リーダーシップ研究）
片柳真理	人間社会科学研究科 教授（国際法、平和構築論）

f. 令和元年度構成員

センター長 大池真知子（教授：アフリカ文学）

専任教員 櫻井里穂（准教授：比較教育学）※R2年10月1日 学内異動により着任
北梶陽子（助教：社会心理学）

協力教員 坂田桐子（人間社会科学研究科 教授：社会心理学）
森永康子（人間社会科学研究科 教授：社会心理学）
相馬敏彦（人間社会科学研究科 准教授：社会心理学）
中島健一郎（人間社会科学研究科 准教授：社会心理学）
服巻 豊（人間社会科学研究科 教授：臨床心理学）
片柳真理（人間社会科学研究科 教授：国際関係論）
相原玲二（情報メディア教育研究センター 教授：副学長）
相田美砂子（学術・社会連携室 特任教授）
河本尚枝（人間社会科学研究科 准教授：福祉社会学）
恒松直美（森戸国際高等教育学院 准教授：国際教育、教育社会学、ジェンダー研究）
デラコルダ川島ティンカ（人間社会科学研究科 講師：宗教社会学）
長坂格（人間社会科学研究科 准教授：文化人類学）
中山亜紀子（人間社会科学研究科 准教授：日本語教育）
山本幹雄（アクセシビリティセンター 准教授：物性物理学、教育アクセシビリティ学、アクセシビリティ支援学）
坂本晶子（アクセシビリティセンター 助教：物性物理学、教育アクセシビリティ学、アクセシビリティ支援学）
新本万里子（アクセシビリティセンター 教育研究推進員：文化人類学、アクセシビリティ支援学）

中村平（人間社会科学研究科 教授：歴史文化論、ポストコロニアル）
金宰煜（人間社会科学研究科 講師：管理会計学）
白川俊之（人間社会科学研究科 准教授：教育社会学）

連携研究者 佐藤陽子（高知大学 助教：社会学）
酒井千絵（関西大学 准教授：社会学）
上條良夫（早稲田大学 教授：経済学）
河口和也（広島修道大学 教授：社会学）
安達菜穂子（社会心理学）

特別顧問 Gerald LeTendre（ペンシルバニア州立大学・教育政策部長・教授）
杉村美紀（上智大学・グローバル化担当副学長・教授）

2. 令和元年度活動報告

a. ダイバーシティ・インクルージョンに関する研究の実施

(1) 研究実施体制の展開

- ・ 令和二年 9 月に金宰煜講師（大学院人間社会科学研究科、管理会計学）が協力教員として参加し、協力体制を構築した。
- ・ 令和二年 10 月に櫻井里穂准教授が専任教員として着任した。
- ・ 令和二年 10 月に Gerald LeTendre 教授（ペンシルバニア州立大学教育政策部長）、杉村美紀教授（上智大学総合人間科学部教育学科・グローバル化推進担当副学長）が特別顧問に就任した。
- ・ 令和三年 3 月に白川俊之准教授（大学院人間社会科学研究科、教育社会学）が協力教員として参加し、協力体制を構築した。
- ・ 令和三年 2 月 19 日（金）9:00（日本時間）より「広島大学ダイバーシティ研究センターとの懇談会」（オンライン）が、ペンシルベニア州立大学教育学部の高等教育研究センター（CSHE）、比較国際教育プログラム(CIED)、高等教育プログラムの共同主催で実施され、大池真知子教授、櫻井里穂准教授がセンターの活動を紹介し、連携を強化した。
- ・ 令和三年 3 月 27 日（土）13:00-16:00「第 1 回ひろしま平和研究イニシアティブ『広島大学人社系センター合同セミナー——各センターは何をしているのか、平和研究・活動にどう関わっているか』」（オンライン、共催：広島大学人文社会科学科、運営：広島大学人文社会科学研究科研究推進委員会「平和研究」タスク、協力：広島大学学術社会連携室 URA 部門（人間社会科学研究科担当））を、広島大学教育ヴィジョン研究センター、広島大学ダイバーシティ研究センター、広島大学平和センター、広島大学応用倫理学プロジェクト研究センターと共同主催し、大池真知子教授が最近の取り組みについて紹介し、協力体制を構築した。

(2) 企業との共同研究

- ・ 平成 29 年度採択の科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」の事業の一環として、組織のダイバーシティ実現を目的とし、共同実施機関やメンバー機関の企業と共同で調査を進めた。
- ・ 令和三年 2020 年 10 月から、障がいについての包摂的な職場作りに取り組む企業と連携を開始した。2021 年 2 月～3 月にアンケート調査を実施した。なお、調査には、障害者雇用支援を行う団体 Unselfish の経営コンサルタントも加わった。

(3) ひろしま多文化研究会の実施

- ・ 令和二年 7 月 18 日（土）9:30-12:00 に「第 7 回研究会」（オンライン）を実施し、広島大学大池真知子教授（ダイバーシティ研究センター長）より「『基町問題』にたいする私の立ち位置——他者を知ること、他者とともに生きること」、広島大学中村平教授（協力教員）より「ドキュメンタリードラマ『基町アパート』から考える広島の多文化／多民族共生」、権鉉基氏より「基町在住、在日朝鮮人から見える風景——基町の『地域活性化』と『多文化共生』」の話題を提供していただき、意見交換を行った。本第 7 回研究会にかぎり、「第 4 回 CEDAR 研究会」との合同研究会として実施した。
- ・ 令和二年 9 月 17 日（土）16:30-19:00 に「第 8 回研究会」（広島大学東千田キャンパス 404 およびオンラインにて）を実施し、広島文教大学岩下康子准教授より「外国人労働者問題を考える——技能実習制度の現状と課題」、広島大学長坂格教授（協力教員）より「フィリピンにルーツを持つ子どもたちからみる日本—フィリピン移動史」の話題を提供していただき、意見交換を行った。
- ・ 令和二年 12 月 4 日（金）16:30-19:00 に「第 9 回研究会」（オンライン）を実施し、叡智大学田口陽子准教授と瀬古素子講師より「『やさしい日本語』の理念と実践：コロナ禍での情報発信から考える広島の『多文化共生』」、広島大学本田義央教授より「東広島市の国際推進化プランについて」の話題を提供していただき、意見交換を行った。
- ・ 令和三年 3 月 26 日（金）13:30-16:00 に「第 10 回研究会」（広島大学東千田キャンパス講義室 404 にて）を実施し、広島大学河本尚枝准教授（協力教員）、広島大学桑山尚司講師より「コロナ禍の外国人留学生」、広島文教大学岩下康子准教授より「コロナ禍の外国人労働者」の話題を提供していただき、意見交換を行った。

(4) CEDAR 広島研究会の実施

- ・ 令和二年 7 月 18 日（土）9:30-12:00 に「第 4 回研究会」（オンライン）を実施し、広島大学大池真知子教授（ダイバーシティ研究センター長）より「『基町問題』にたいする私の立ち位置——他者を知ること、他者とともに生きること」、広島大学中村平教授（協力教員）より「ドキュメンタリードラマ『基町アパート』から考える広島の多文化／多民族共生」、権鉉基氏より「基町在住、在日朝鮮人から見える風景——基町の『地域活性化』と『多文化共生』」の話題を提供していただき、意見交換を行った。本第 4 回研究会にかぎり、「第 7 回広島多文化共生研究会」との合同研究会として実施した。
- ・ 令和二年 8 月 30 日（日）13:00-15:30 に「第 5 回研究会」（オンライン）を実施し、県立広島大学植村広美准教授より「子どもへの放課後学習支援」、広島大学河本尚枝准教授（協力教員）よ

り「高齢者への健康支援」の話題を提供していただき、意見交換を行った。

(5) CEDAR 広島開催準備合宿

- ・ 令和二年 11 月 1 日（日）・2 日（月）に 2021 年 CEDAR 広島開催のために CEDAR 広島のスタッフ 6 名とともに準備合宿を行った。広島大学インキュベーション研究拠点「ダイバーシティ&インクルージョン科学の理論と実践のための研究拠点」と共同で実施した。
- ・ 一日目は「外国人実習生と出会い新しい隣人の現状を知る——「多文化共生」の課題」として、午前はベトナムとインドネシアの実習生 9 名と懇談会（広島市双葉公民館にて）を実施し、広島文教大学岩下康子准教授と意見交換を行った。午後は“CEDAR Pedagogic Principles”（1~4）読書会（アステールプラザにて）を実施し、小グループの体験共有、ドキュメンタリー映画視聴と意見交換を行った。
- ・ 二日目は「朝鮮学校で昔からの隣人を知る——国家、民族、歴史文化、コミュニティ、個人」として、午前は広島朝鮮初中高級学校での授業見学（広島朝鮮初中高級学校にて）を実施し、校長先生、保護者、関係者と意見交換を行った。午後は、“CEDAR Pedagogic Principles”（5~11）読書会を行い、その後振り返り（広島大学にて）を行った。

(6) 株式会社リクルートマネジメントソリューションズ組織行動研究所今城志保主幹研究員との研究知見の共有

令和二年 7 月 7 日（火）13:00-16:00 に「第 1 回ダイバーシティと人間行動研究会」（オンライン）を開催し、株式会社リクルートマネジメントソリューションズ組織行動研究所今城志保主幹研究員より「心理的安全性について」、広島大学坂田桐子教授（協力教員）より「包摂性について」の話題を提供していただき、意見交換を行った。

(7) サイトによる広報活動の展開

- ・ センターの活動が着実に発展し、多岐にわたるようになったため、学内外の各所との連携のために、広報活動として独自サイトの内容を充実させた。
- ・ 海外との連携のためにサイトの英語化に着手した。

(8) その他研究活動

「3. 令和二年度研究業績一覧」（後述）にあるように、各研究者が独自の研究課題を遂行した。

b. ダイバーシティ・インクルージョンの教育

(1) 教養教育平和科目「ひろしま平和共生リーダー概論」（COC 事業関連）でセンターが 1 コマ担当し、7 月 27 日（月）に大池真知子教授が実施した。

(2) 特定プログラム「ダイバーシティ特定プログラム」開設

令和 2 年度より特定プログラム「ダイバーシティ特定プログラム」を開設した。基礎的な必修科目として「ダイバーシティ概論」（教養教育社会連携科目としても開講）を新規開講するとともに、発展的な必修科目「ダイバーシティ演習」の準備を進めた。また、令和三年 1 月 20 日（水）には特定プ

プログラムに関する学部1年生向けの説明会（オンライン）を実施した。また、特定プログラムの企画運営のために、全学の学務委員会に参加した。

(3) 大学院共通科目「ダイバーシティの理解」を開講

令和元年度より開設された大学院共通科目の持続可能な発展科目群に1単位分の講義として実施した。ワーキング・グループに参加し、企画と実施に携わった。

(4) 教養的教育科目「大学教育入門」（全学必修）開設準備

令和2年度より再開講し講義を実施した。ワーキング・グループに参加し、企画と実施に携わった。

(5) ジェンダーに関する読書会の実施

希望する学生とジェンダーやセクシュアリティについての読書会を月3回程度で実施した。

(6) その他のダイバーシティ教育の実施

教養教育科目「ジェンダーと社会」、「平和を考える」、総合科学部専門科目「ジェンダー学1, 2」、「学問とジェンダー」、総合科学研究科専門科目「異文化理解」などの授業を通じて、ダイバーシティについての教育を実施した。

c. 学内外におけるダイバーシティ・インクルージョンの推進

(1) 公開講座・セミナー・イベントの実施

- 令和二年9月25日（金）14:00-16:10 教養科目「ダイバーシティ概論」の一環として、「性の多様性を考える『ドキュメンタリー映画上映会＋意見交換会』」（広島大学総合科学部 K103 およびオンラインにて、参加者：小林空雅氏、河口和也教授（広島修道大学）、當山敦己氏（「ここいろhiroshima」共同代表）、高畑桜氏（「ここいろhiroshima」共同代表）、城英介氏（“人間と性”教育研究審議会広島サークル代表幹事・中国ブロック幹事）、坂田桐子教授（協力教員、インキュベーション拠点「ダイバーシティ&インクルージョン科学の構築と実践のための研究拠点」長）、大池真知子教授（ダイバーシティ研究センター長）を、広島大学インキュベーション拠点「ダイバーシティ&インクルージョン科学の構築と実践のための研究拠点」と共同主催した。
- 令和二年9月28日（月）9:30-12:00 多文化共生国際セミナー（第1回ダイバーシティセミナー）「異文化間対人スキル構築」（オンライン、講師：Gerald LeTendre 教授（ペンシルバニア州立大学・教育政策部長）「オンライン環境下における異文化間コミュニケーション能力形成」、杉村美紀教授（上智大学・グローバル化担当副学長）「教育における言語の役割」、共催：教育開発国際協力研究センター）を広島大学インキュベーション拠点「ダイバーシティ&インクルージョン科学の構築と実践のための研究拠点」と共同主催した。
- 令和二年11月6日（金）10:30-12:00 男女共同参画セミナー「多様な性の視点でつくる学校教育」（広島大学総合科学部およびオンラインにて、講師：眞野豊氏（日本学術振興会特別研究員PD、広島修道大学非常勤講師）を男女共同参画推進室と共同主催した。
- 令和三年3月4日（木）15:00-16:30 広島大学ダイバーシティ公開セミナー（第2回ダイバーシティセミナー）「ブータンにおけるインクルーシブ教育の実践」（オンライン、講師：Karma Norbu

シニアプログラムオフィサー（教育省特別支援教育部門）「ブータンにおけるインクルーシブ教育を概観して」、Nyendo Tshering 校長（チャンガンカ中期中等学校）「コロナ禍におけるオンライン教育 ブータンのインクルーシブ教育実践校の挑戦」を広島大学インキュベーション研究拠点「ダイバーシティ&インクルージョン科学の理論と実践のための研究拠点」と共同主催した。

- ・ 令和三年 3 月 8 日（月）9:00-11:00 多文化共生セミナー（第 3 回ダイバーシティセミナー）「異なる文化と生きるために」（オンライン、講師：アダム・セリグマン教授（CEDAR 代表）、共催：異文化間教育推進室、協力：ひろしま多文化共生研究会）を広島大学インキュベーション研究拠点「ダイバーシティ&インクルージョン科学の理論と実践のための研究拠点」と共同主催した。
- ・ 令和二年 6 月より大池真知子教授が「世界の子どもの平和像をつくる会ヒロシマ」世話人に就任し、「せこへい美術館」の企画運営に携わることとなった。「せこへい美術館 2020」（令和二年 8 月 8 日（土）-16 日（日）旧日銀広島支店ビルにて開催）のために、「Body Mapping」のファシリテータを務め、せこへい世話人会、社団法人 HAP の利用者、「広島高校生平和ゼミナール」ゼミ生と Body Mapping を実施した。
- ・ 令和二年 11 月 7 日（土）10:00~16:00 「第 14 回広島大学ホームカミングデー」（広島大学東広島キャンパスサタケメモリアルホールロビーにて、教育ヴィジョン研究センター（EVRI）合同展示）において、パネルでの合同展示で活動を紹介した。
- ・ 「広島県人権だより 令和 2 年（2020 年）」に大池真知子教授が「教えて、人権！——ダイバーシティとインクルージョンについて」を寄稿した。

(2) 企業・自治体・教育機関での研修や講演

- ・ 令和二年 10 月 9 日（金）広島市内 Unselfish オフィスにて、櫻井里穂准教授が、第 1 回インクルーシブ教育セミナー（Unselfish & おせっかい法人主催）で「インクルーシブ教育、その起源・実践・教員の政策受容実態——ブータンと日本の事例から」の講演を行った。
- ・ 令和三年 3 月 24 日（水）-3 月 31 日（水）の期間で、『ダイバーシティ&インクルージョン』を志向した職場環境の改善に関する講演会（オンライン、学校法人常翔学園広島国際大学研究支援・社会連携センター主催）が公開され、大池真知子教授が「ダイバーシティ&インクルージョンとは何か」の講演を行った。
- ・ 令和三年度にダイバーシティ研究センターが安芸高田市でジェンダー平等と性の多様性にかんする取り組みのコンサルティングを行うため、令和二年 12 月より連携を開始した。

(3) 広島大学でのダイバーシティ推進のための取り組み

- ・ 令和二年 4 月「セクシュアリティの多様性検討ワーキング」（座長：大池真知子教授）より、アクセシビリティセンター、保健管理センター、ハラスメント相談室の協力のもと、広島大学における「性の多様性に関する理念と対応ガイドライン——LGBT 等の学生の修学のために」が施行された。
- ・ 「セクシュアリティの多様性検討ワーキング」を「性の多様性についてのパンフレット編集委員会」として再組織し、学生向けの啓発パンフレット「性の多様性を知ろう——LGBT ってなに？」（英語版：Introduction to Diversity in Gender and Sexuality-Do You Know LGBT?）を作成、新入学生に配布した。
- ・ 令和二年 4 月ならびに 10 月大池真知子教授が 2020 年度広島大学新採用教職員研修（4 月期、

10 月期)「性の多様性に関する理念とガイドライン」(オンライン) についての講義を実施した。

d. センター運営の活動

(1) センター活動の評価

- ・ 令和二年 9 月、設立より 5 年目となったため自己点検中間評価を実施した。
- ・ 令和二年 10 月 7 日 (水) 10 : 00~13 : 00 (オンライン) 広島大学ダイバーシティ研究センター外部評価委員会 (部評価委員長 : 佐野真理子 (広島大学名誉教授)、委員 : 小川勤 (静岡福祉大学・特任教授・高等教育論、特別支援教育)、松原洋子 (立命館大学・教授・科学史、優生学、ジェンダー論)、中坂恵美子 (中央大学・教授・国際法、EU 研究)、田中由美子 (城西国際大学・招聘教授・国際協力学、国際協力とジェンダー論)) が開催された。
- ・ 令和二年 12 月、自己点検中間評価に基づき外部中間評価が実施され、書面審議の結果、外部評価報告書案が承認された。

(2) 新規パンフレットの作成

- ・ 令和二年 12 月、特定プログラムの履修希望学生への理解促進や企業との連携のために、これまでの活動や調査をまとめたパンフレットを作成した。

3. 令和二年度研究業績一覧

論文・著書

- Abe, K., & Nakashima, K. (2020). Excessive-reassurance seeking and mental health: Interpersonal networks for emotion regulation. *Current Psychology*, 1-11.
- Abe, K., & Nakashima, K. (2020¹). Searching for positive aspects of excessive reassurance-seeking. *Japanese Psychological Research*, 63(2), 95-103.
- Abe, N., Abe, K., & Nakashima, K. (2020). The role of perceived stress and fear of negative evaluation in the process from alexithymia to over-adaptation. *Psychologia*, 62(3-4), 217-232.
- 阿部夏希・石田 弓・中島健一郎 (2020).アレキシサイミアがストレス経験と評価懸念を介して過剰適応に及ぼす影響 心理臨床学研究, 37(6), 571-581.
- 阿部夏希・小池真由・中島健一郎 (2021). 評価懸念が高い個人の反動的自己評価と実際の評価の差異に関する検討 広島文教大学心理学研究, 2(2), 65-73.
- Delakorda Kawashima, T. (2021) “Brezzvezna” japonska družba in prakse pripadanja v času pandemije (The “disconnected” Japanese society and practices of belonging in times of the pandemic). In: ROŠKER, Jana S. (ed.). *Pandemija covid-19 v Aziji: tradicionalni humanizmi, moderna odtujenost in retorike sodobnih ideologij*. Ljubljana: Znanstvena založba Filozofske fakultete, (pp. 45-64), Zbirka Studia Humanitatis Asiatica.
- Fresnoza-Flot, A., & Nagasaka, I. (2020). Fluctuating social class mobility of Filipino migrant children in France and in Italy. C. Baraldi & L. De Castro (eds.) *Global Childhoods in International Perspective: Universality, Diversity and Inequalities* (pp.185-202), Sage.
- Fresnoza-Flot, A., & Nagasaka, I. (2021). Lingering Caregiver-Child Relations across Borders: Filipino Migrant Youths in Europe and their Stay-behind Carers in the Philippines. *Zero-a-Seis*, 23(43), 889-914.
- 福田恵・長坂 格 (2020). 山間地域における移住者の社会的役割：その継承と生成に着目して，日本の科
学者, 55(10), 569-575.
- Furutani, K., Kawamoto, T., Maryam, A., & Nakashima, K. (2020). Exhausted parents in Japan: preliminary validation of the Japanese version of the parental burnout assessment. *New Directions for Child and Adolescent Development*, 174, 33-49.
- Hara, K., Kitakaji, Y., Sugino, H., Yoshioka, R., Takeda, H., Hizen, Y., & Saijo, T. (2021). Effects of experiencing the role of imaginary future generations in decision-making: a case study of participatory deliberation in a Japanese town. *Sustainability Science*, 1-16.
- Hiromitsu, T., Kitakaji, Y., Hara, K., & Saijo, T. (2020). What Do People Say When They become

¹ 出版：2021 年 4 月

"Future People"? - Positioning Imaginary Future Generations (IFGs) in General Rules for Good Decision Making. *RIETI Discussion Paper Series*, 20-E-076.

井手吉成佳・八島雄士・金 宰煜・細野賢治・佐藤 幹 (2020). 地域産業を素材とする多様な製品の開発が食品ロス低減に及ぼす影響―(株) 島ごころのケーススタディー― マネジメント研究, 21, 81-88.

河口和也 (2020). 性的マイノリティの抵抗の歴史とその拡がりの可能性―ニューヨーク、ストーンウォール・インの暴動の事例から― 広島修大論集, 20(2), 19-36.

河口和也 (2020). 性の多様性の認められる社会に向けて―人権と社会意識の狭間で― 部落解放研究 (広島部落解放研究所), 27, 69-91.

ケイン聡一・小池真由・中島健一郎 (2020). 同調行動研究のこれまでとこれから―動機に着目する必要性― 広島大学心理学研究, 20, 121-132.

川崎梨江・相羽将智・服部典利子・坂田桐子・匹田篤 (2020). リスク認識における AR 体験の効果に関する調査 総合科学研究 : 広島大学大学院人間社会科学研究科紀要, 1, 37-46.

李 受珉・小池真由・中島健一郎 (2020). Shift-and-Persist strategy 研究の課題と展望 広島大学心理学研究, 20, 109-120.

Lee, S. & Nakashima, K. (2020). Do shift-and-persist strategies predict the mental health of low-socioeconomic status individuals? *Japanese Journal of Experimental Social Psychology*, 59 (2), 107-113.

松本千香・坂田桐子・杉浦仁美 (2020). 災害発生時におけるペットとの同行避難及び避難所等での同居に関する態度 ヒトと動物の関係学会誌, 56, 61-71.

森永康子・坂田桐子・北梶陽子・大池真知子・福留広大 (2021). 働く女性に対する好意的性差別主義尺度の作成 広島大学心理学研究, 20, 11-22.

森永康子・村上理子・本勝仁士・川田遥子・木本ゆき (2021). 仕事への情熱は働き過ぎを正当化するのか : Kim et al. (2020)の追試 広島大学心理学研究, 20, 1-9.

Nagasaka, I. (2020). Rearranging available resources to secure livelihoods: Continuities and change in livelihood strategies in a rural village in Ilocos, Philippines. K. Seki (ed.) *Ethnographies of development and globalization in the Philippines : emergent socialities and the governing of precarity* (pp. 156-177), Routledge.

長坂 格 (2021). 「再生産労働の国際分業」のなかの男性移住者 : イタリアのフィリピン人男性家事労働者の男性性と自己の再構築 越智郁乃・関恒樹・長坂 格・松井生子 (編) グローバリゼーションとつながりの人類学 (pp.237-266) 七月社

中村 平 (2020). 「造反教師」松元寛の「広大紛争」小説群を五〇年後に読む 原爆文学研究, 19, 41-77.

中村 平 (2020). 莫那魯道紀念公園 (霧社事件紀念公園) みんなの台湾修学旅行ナビ

中村 平 (2020). 拉拉山 みんなの台湾修学旅行ナビ

中島健一郎 (2020). 排斥研究から人のつながりを考える―玉井論文へのコメント― 心理学評論, 63 (2),

183-191.

- 中山亜紀子 (2021). 入江の「セルフにみる学習者心理理解へのアプローチ—individual differences から
の逸脱」を読んで 青木直子・バーデルスキー・マシュー (編)『日本語教育の新しい地図 - 専門知識
を書き換える』(pp. 159-164) ひつじ書房
- 西野幸子・相馬敏彦 (2020). 高等教育機関での学びが職場に転移される条件—社会人学生のプロアクテ
ィブ行動を促す組織風土の影響— 日本生涯教育学会論集, 41, 135-152.
- 野中りょう・森永康子 (2021). 傍観者によるネットいじめの被害者・加害者非難：公正世界信念の下位
概念の影響に注目して 広島大学心理学研究, 20, 33-48.
- Oike, M. (2021). Memory Book as a New Genre of Illness Writing: How a Ugandan Farming Mother
Wrote about and Coped with HIV. *English Studies in Africa*, 64 (1), (掲載決定).
- 大池真知子 (2021). 書評『神の影 ルワンダへの旅—記憶・証言・物語』(ヴェロニク・タジョ 著、村田
はるせ訳、エディション・エフ、2019 年、214 ページ) , 『黒人研究』, 90, 82-84.
- 大竹文雄・坂田桐子・松尾佑太 (2020). 豪雨災害時の早期避難促進ナッジ 行動経済学, 13, 71-93.
- 坂田桐子 (2020). 組織・集団におけるダイバーシティを考える *Building maintenance & management*,
42(1), 30-33.
- 坂田桐子 (2020). チームにおける助け合いに潜むもう一つの陥穽：山口論文へのコメント 心理学評論,
63(4), 453-456.
- Sakurai, R. (2020). Education for Foreign-Born Students at Japanese schools—Inclusive or
Collective? *Journal of Education and Practice*, 11 (18), 195-202.
- Sakurai, R. (in press). Reexamination of inclusive education—its dynamics, challenges, and
complexities: implications from an empirical study from Bhutan and Japan. *Annual Review of
Comparative and International Education*.
- 櫻井 里穂 (印刷中). 第 6 章「ブータンにおけるインクルーシブ教育の導入と展開—教員の政策受容実態
と障がい観を中心に」 川口純 (編) 途上国のインクルーシブ教育.
- 佐藤洋子 (2021). 女性活躍推進を進める企業で女性が管理職になりたがらないのはなぜか——小売業 X
社における管理職志向のない女性正社員の語りから 労働社会学研究, 21, 23-42.
- 佐藤洋子 (2021). 「地域における男女共同参画」が意味するもの Collaboration (高知大学教育研究部総
合科学系地域協働教育学部門研究論集) , 11, 13-20.
- 清水陽香・小池真由・Steve Loughnan・中島健一郎 (2020). 認知的方略が対人場面での行動意図に及ぼ
す影響—イギリスでの追試研究— 広島大学心理学研, 20, 99-107.
- 新本万里子・山本幹雄・坂本晶子・大池真知子・山崎恵里・服巻 豊・吉原正治 (2020). 多様な学生の学
内トイレの利用に関する基礎的環境整備の検討：広島大学の事例から 総合保健科学, 36, 31-42.
- 新本万里子 (2021). パプアニューギニアにおける月経の禁忌の実践とジェンダー・カテゴリー間の関係
の変化——保健教育を受けた世代のサゴヤシ澱粉抽出作業をめぐる 越智郁乃・関恒樹・長坂 格・

- 松井生子 (編) グローバリゼーションとつながりの人類学 (pp.159-180) 七月社
- 新本万里子 (2020). 伝えられる知識と伝えられない知識 上羽陽子・山崎明子 (編) 現代手芸考 ものづくりの意味を問い直す (pp.88-91) フィルムアート社
- Toya, A., & Nakashima, K. (2020). Reconsidering Terror Management Theory in Japan. *Psychologia*, 62(3-4), 206-216.
- 恒松直美 (2021). 高校生と交換留学生の異文化間インタラクションの挑戦 ―異文化理解教育推進プログラム「吉舎おもてなしプラン」国際交流― 広島県立日彰館高等学校 研究紀要, 18, 51-64.
- 矢澤順根・古川善也・中島健一郎 (2020). クリティカルシンキングの能力および志向性が共感の正確さに及ぼす影響 社会心理学研究, 36(1), 16-24.

学会発表

- 相羽将智・坂田桐子, シャーデンフロイデの喚起要因の検討: 悪性妬みと公正世界信念に着目して, 日本感情心理学会第 28 回大会(オンライン, 2020.6.5-7)
- Delakorda Kawashima, T., Reframing Kakure Kirishitan's religious heritage as a landscape of multicultural coexistence, Presentation in conference on *Contesting Memorial Spaces in the Asia-Pacific*. (Kyushu University Border Studies, Fukuoka, 2020. 11. 7)
- Delakorda Kawashima, T., Living with difference: A message from a CEDAR fellow, Presentation in Webinar on "Living with Different Cultures" with Prof. Adam Seligman (Director of CEDAR, Boston University), (Online, Hiroshima University, Hiroshima, Japan, 2021. 3. 8)
- Delakorda Kawashima, T., "Brezzvezna" japonska družba in prakse pripadanja v času pandemije (The "disconnected" Japanese society and practices of belonging in times of the pandemic), Online Symposium Vzhodna Azija: pandemija covid, etika globalnega humanizma in usoda kulturnih dediščin. (University of Ljubljana, Ljubljana, Slovenia, Online, 2021. 3. 5)
- 古谷嘉一郎・アリマルダニ マリエル・中島健一郎, 子育てバーンアウトとデモグラフィック変数の関連: 日本人データをもとにした検討, 日本社会心理学会第 61 回大会 (オンライン, 2020. 11. 6 – 2020. 11. 13)
- ケイン聡一・中島健一郎, 同調動機尺度の提案と検証, 日本心理学会第 84 回大会 (オンライン, 2020. 9. 8 – 2020. 11. 2)
- Kane, S., & Nakashima, K., Examining Conformity Behavior Motivated by Avoidance of Loneliness - from the Relation to AQ -. The 22nd annual meeting of the society for personality and social psychology (Online, 2021. 2. 27 – 2021. 2. 29)
- 加藤聖子・坂田桐子, 公正世界信念が原子力災害における被災者支援に及ぼす影響, 日本社会心理学会第 61 回大会 (オンライン, 2020.11.7-8)
- Kim, J., Yashima, Y., Nagai, H., & Doering, A., Current State and Challenges of Japan DMO's Partnerships Program: Success or Failure?, 2nd International Conference of Critical Tourism Studies Asia Pacific (Wakayama University, Wakayama, Japan, 2020. 2. 17-19)

- 清末有紀・森永康子, 雇用場面における backlash 効果の検証, 日本心理学会第 84 回大会 (オンライン, 2020. 9. 8 – 2020. 11. 2)
- 清末有紀・森永康子, 昇進意欲に対する否定的な反応—男女有職者を対象にした自由記述の分類—, 中国四国心理学会第 76 回大会 (オンライン, 2020. 11. 14)
- Kiyosue, Y., & Morinaga, Y., Backlash and women's motivation for promotion in the workplace, Society for Personality and Social Psychology 2021 Virtual Convention (Online, 2021. 2. 13)
- Lee, S., Kabir, R., S., & Nakashima, K., Psychometric Properties of Shift-and-Persist Strategies with Item Response Theory. The 22nd annual meeting of the society for personality and social psychology (Online, 2021. 2. 27 – 2021. 2. 29)
- 李 受珉・戸谷彰宏・中島健一郎, 精神的健康における Shift-and-Persist strategy の効果：メタ分析による知見の統合, 日本心理学会第 84 回大会 (オンライン, 2020. 9. 8 – 2020. 11. 2)
- 前田章湖・森永康子, エンパワメントはジェンダー不平等に対する女性の責任認知にどのように影響するか, 中国四国心理学会第 76 回大会 (オンライン, 2020. 11. 14)
- 宮前奈央子・李 受珉・阿部夏希・中島健一郎, 友人関係における相互影響過程の検討, 日本社会心理学会第 61 回大会 (オンライン, 2020. 11. 6 – 2020. 11. 13)
- Morinaga, Y., Hirakawa, M., & Fukudome, K., Gender System Justification, Happy Families, and Women's Choice to Take Traditional Gender Roles, Society for Personality and Social Psychology 2021 Virtual Convention (Online, 2021. 2. 13)
- 森永康子・平川 真・福留広大, 結婚・出産時の転退職は自分で決めました—自己決定の知覚と人生満足度—, 日本社会心理学会第 61 回大会 (オンライン, 2020. 11. 6 – 2020. 11. 13)
- 森永康子・平川 真・福留広大, ジェンダー・システム正当化は人々に幸せをもたらすのか, 日本心理学会第 84 回大会 (オンライン, 2020. 9. 8 – 2020. 11. 2)
- 中村 平, 「造反教師」松元寛の「広大紛争」小説群を 50 年後に読む, 第 61 回原爆文学研究会 (オンライン, 2020. 8. 8)
- 中山亜紀子・仁科陽江・丸田健太郎・李在鉉, 企業で働く聴覚障害者の働きがい—製造業 Z 社を例として—, 異文化間教育学会第 41 回大会 (オンライン, 2020. 6. 13-14)
- 西村由貴子・中島健一郎, 両親と子のトライアドデータを使用した自尊心の親子間相関の検討：親子が認知する養育態度の媒介効果に着目して, 中国四国心理学会第 76 回大会 (オンライン, 2020. 11. 14)
- 野間紘久・重松 潤・中島健一郎, 抑うつ認知脆弱性の適応的側面について—ストレスフルイベントに着目して—, 日本認知・行動療法学会第 46 回大会 (オンライン, 2020. 9. 11 – 2020. 9. 30)
- 野間紘久・重松 潤・中島健一郎, 認知的脆弱性が抑うつ症状に及ぼす影響—ストレスフルイベントを含めたモデルの検討—, 日本社会心理学会第 61 回大会 (オンライン, 2020. 11. 6 – 2020. 11. 13)
- Noma., H., & Nakashima, K. Roles of Cognitive Vulnerabilities on Depressive Symptoms: Using Beck's Theory of Depressive Cognition. The 22nd annual meeting of the society for personality

and social psychology (Online, 2021. 2. 27 – 2021. 2. 29)

野中りょう・森永康子, いじめ場面における傍観者が被害者を援助するには—公正世界信念の下位概念と自己効力感の影響に注目して—, 中国四国心理学会第 76 回大会 (オンライン, 2020. 11. 14)

Norbu, K., Sakurai, R., & Norbu, K., "Inclusive Education Situation in Bhutan", JCES/UNESCO International Online Seminar on Inclusive Education in Asia Pacific region Webinar (UNESCO Bangkok; JCES, Online, 2020. 8. 5)

大池真知子, 「『基町問題』にたいする私の立ち位置——他者を知ること、他者とともに生きること」, CEDAR 広島／ひろしま多文化共生研究会 第 4 回／第 7 回 (オンライン, 2020. 7. 18)

坂田桐子, 好意的性差別経験が女性の状態自尊心に及ぼす影響：縦断調査による検討, 日本社会心理学会第 61 回大会(オンライン, 2020.11.7-8)

櫻井里穂, ブータンにおけるインクルーシブ教育, 広島大学ダイバーシティ研究センター&ダイバーシティ・インクルージョン研究拠点 ブータンにおけるインクルーシブ教育の実践 (オンライン, 2021. 3. 4)

Sakurai, R., 広島大学ダイバー研の設立と今後の課題—日本におけるダイバーシティ研究について—, Penn State Brown Bag Talk (Penn State University, Online, 2021.2.19)

Sakurai, R., "Inclusive education" in Bhutan and Japan--voices on the ground--, Brown Bag seminar for the Department of Educational Policy & Leadership (School of Education, University at Albany- SUNY, Online, 2020. 11. 19)

櫻井里穂, ブータンにおけるインクルーシブ教育の導入と展開—教員の政策受容実態と障がい観を中心に—, 筑波大学インクルーシブ教育研究会 (オンライン, 2020.6.4)

櫻井里穂, 増え続ける外国籍児童生徒に関する諸問題：何が課題なのか：広島の実例より, CEDAR 広島第 1 回研究会 (広島大学, 2020.3.10)

Sakurai, R., Re-examination of Best Practices of Inclusive Education in Inclusive Education for Children with Disabilities: Bhutan Revisited, Comparative and International Education Conference, Comparative and International Education Conference (CIES organizing committee, Virtual conference organized by Arizona State University, 2020. 3. 23)

佐藤洋子, 第 5 次男女共同参画基本計画案にみる農村女性政策の変化, 日本村落研究学会第 68 回大会 (オンライン, 2021. 11. 21) [口頭発表]

Shinmoto, M., Education of Menstrual Hygiene Management and Practice among Schoolgirls in Papua New Guinea, 81st Annual Meeting, Society for Applied Anthropology (Online, 2021.3.22-27)

竹部成崇・中島健一郎, 景気と集団資源可変性が内集団の広さに及ぼす影響, 日本社会心理学会第 61 回大会 (オンライン, 2020. 11. 6 – 2020. 11. 13)

寺垣内雅子・中島健一郎, 集団への所属意識とキャリア意識に対する自己肯定感の効果, 日本社会心理学

会第 61 回大会（オンライン, 2020. 11. 6 – 2020. 11. 13）

戸谷彰宏・中島健一郎, 存在論的恐怖への対処に対する選択的反応の検討—イギリスの大学生を対象にした検討—, 日本社会心理学会第 61 回大会（オンライン, 2020. 11. 6 – 2020. 11. 13）

Tsunematsu, N., “Multinational Students’ Culturally Versatile Adjustment and Readjustment Experiences through Study Abroad in Japan,” The International Academic Forum (IAFOR), The Asian Conference on Education (ACE 2020; Online, 2020.11.2)

謝 新宇・福井謙一郎・中島健一郎, 愛着不安傾向が身体的攻撃につながるプロセス—DV のエスカレート法則の観点から—, 日本心理学会第 84 回大会（オンライン, 2020. 9. 8 – 2020. 11. 2）

Xie, X., Fukui, K., & Nakashima, K., The relation between attachment orientation and communicative response to jealousy. The 22nd annual meeting of the society for personality and social psychology (Online, 2021. 2. 27 – 2021. 2. 29)

山森光陽・中島健一郎. 担任学級のクラスサイズの変化が教師が行うフィードバックに与える影響, 日本教育心理学会第 62 回総会（論文掲載）

山本幸一・古川善也・福井謙一郎・中島健一郎, リーダーの選択方法がフォロワーからのリーダーへの期待に及ぼす影響. 中国四国心理学会第 76 回大会（オンライン, 2020. 11. 14）

Yamamoto, K., Furukawa, Y., Fukui, K., & Nakashima, K., The impact of leader selection procedures on followers’ biased expectations to leaders’ ability. The 22nd annual meeting of the society for personality and social psychology (Online, 2021. 2. 27 – 2021. 2. 29)

山本幹雄, 広島大学における実践報告, 日本特殊教育学会 第 58 回大会自主シンポジウム（オンライン, 2020. 9. 26）

矢澤順根・阿部夏希・中島健一郎, クリティカルシンキングの社会的・対人的有用性の検討（2）：言語的情報を手掛かりとする共感の正確さとの関連から, 日本心理学会第 84 回大会（オンライン, 2020. 9. 8 – 2020. 11. 2）

矢澤順根・古川善也・中島健一郎, 他者の心理状態の推測におけるクリティカルシンキングの有用性：能力と志向性の 2 つの側面に着目して, 日本社会心理学会第 61 回大会（オンライン, 2020. 11. 6 – 2020. 11. 13）

Yazawa, A., Furukawa, Y., & Nakashima, K., Interpersonal benefits of Critical Thinking: Examination of the interaction of Ability and Orientation with Empathic Accuracy. The 22nd annual meeting of the society for personality and social psychology (Online, 2021. 2. 27 – 2021. 2. 29)

講演会・研修

河本尚枝, 中国帰国者の生活課題, 中国・四国ブロック中国帰国者支援機関連絡会議（主催：中国・四国地区中国帰国者支援・交流センター, 広島県広島市, 広島県社会福祉会館, 2020.11.20）

- 森永康子, 基調講演「ジェンダー・バイアス研究の最前線」, 公開シンポジウム 今こそアクションを！
人文社会科学からの発信 (主催: 人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会 (GRAHSS), 2021.
3. 28)
- 森永康子, 「男女共同参画セミナー: 格差を生み出す心のしくみ〜ジェンダーと社会心理学〜」 (主催:
公益財団法人広島市文化財団 仁保公民館, 仁保公民館, 2021. 2.26)
- 長坂 格, 「薄いエージェンシー」としてのあいまいな未来: イタリアのフィリピン系若者移住者の未来
イメージをめぐる, 国立民族学博物館共同研究会「オセアニア・東南アジア島嶼部における他者接
触の歴史記憶と感情に関する人類学的研究」, 国立民族学博物館, ZOOM, 2020.6.6, 参加人数 14 名)
- 大池真知子, パネリスト, 「ヒューマンフェスタ 2021 ひろしま」LGBT トークショー (主催: 広島県人
権男女共同参画課, 広島県広島市, 広島市総合福祉センター, 2020. 12. 5)
- 大池真知子, 「ダイバーシティ&インクルージョンとは何か」, 「『ダイバーシティ&インクルージョン』
を志向した職場環境の改善に関する講演会」講師 (主催: 学校法人常翔学園 広島国際大学 研究支
援・社会連携センター, 学校法人常翔学園で動画配信, 2021. 3. 24 – 2021. 3. 31)
- 坂本晶子, 支援者の育成と ICT 活用, 令和 2 年度障害学生支援実務者育成研修会 基礎編(主催: 日本学生
支援機構, オンライン, 2020.11.16)
- 坂田桐子, チームにおけるリーダーシップとメンバーシップ (主催: 広島県看護協会, 広島県福山市, 県
民文化センターふくやま, 2020. 8. 17, 参加人数 23 人)
- 坂田桐子, 看護チームマネジメント: リーダーシップとメンバーシップ (主催: 広島大学病院看護実践教
育研修センター, 広島県広島市, 広島大学病院, 2020. 9. 12, 参加人数 45 人)
- 坂田桐子, チームにおけるリーダーシップとメンバーシップ (主催: 広島県看護協会, 広島県広島市, 広
島県看護協会, 2020. 10. 15, 参加人数約 43 人)
- 坂田桐子, リーダーシップ (主催: 独立行政法人国立病院機構呉医療センター・中国がんセンター, 広島
県呉市, 独立行政法人国立病院機構呉医療センター・中国がんセンター, 2020. 12.8, 15, 参加人数約
50 人)
- 坂田桐子, 組織における違反を防ぐ (主催: (株)ウォーターエージェンシー, 広島県広島市, 太田川流域
下水道東部浄化センター, 2020. 12. 16, 参加人数約 20 人)
- 坂田桐子, 災害時における早期避難を実現するための課題 (主催: 広島県, 広島県広島市, サテライトキ
ャンパスひろしま, 2021. 3. 25, 参加人数約 40 人)
- 坂田桐子, 災害時における早期避難を実現するための課題 (主催: 広島県, 広島県三原市, サン・シーブ
ラザ, 2021. 3. 26, 参加人数約 40 人)
- 佐藤洋子, 現代のジェンダーをめぐる状況—女性の連帯とネットワークの深化に向けて—, 第 22 回こ
うち女性団体ネットワーク・学習と交流会 (主催: こうち女性団体ネットワーク, 高知県高知市, こ
うち男女共同参画センター「ソーレ」, 2020.10.4)
- 佐藤洋子, ”女性活躍”の下での私たち: 女性の人権の視点から基本計画を考える, 男女共同参画学習会&

交流会（主催：こうち男女共同参画ポレール，高知県高知市，こうち男女共同参画センター「ソーレ」，2020.11.7）

佐藤洋子，「女性活躍」について考える，令和2年度男女共同参画講座「ジェンダーカフェ」（主催：（公財）こうち男女共同参画社会づくり財団，高知県高知市，こうち男女共同参画センター「ソーレ」，2020.12.6）

佐藤洋子，私たちの望むジェンダー平等，第111回国際女性デー高知県集会（主催：第111回国際女性デー高知県集会実行委員会，高知県高知市，高知県人権啓発センターホール，2021.3.8）

恒松直美，日彰館高校「おもてなし国際交流会」，日彰館高等学校「おもてなしプラン」行事における「おもてなし国際交流会」（主催：日彰館高等学校，日彰館高等学校&オンライン，2020.11.20，参加人数約250人）

恒松直美，“Preparing to Return Home: Reverse Culture Shock,” HUSA Program 2019 - 2020 「グローバル・リーダーシッププロジェクト」最終発表会 – “Discover Hiroshima 「広島新発見」 ”（主催：HUSA プログラム，オンライン，2020.7.16，参加人数約50人）

恒松直美，“Meaning of Experiential Learning & Cooperative Learning,” HUSA Program 2019 - 2020 「グローバル・リーダーシッププロジェクト」中間発表会 – “Discover Hiroshima 「広島新発見」 ”（主催：HUSA プログラム，オンライン，2020.5.28，参加人数約50人）

恒松直美，「異文化間チームワーク」 "Intercultural Teamwork," 広島大学短期交換留学プログラム（Hiroshima University Study Abroad Program, HUSA）オリエンテーション（主催：HUSA プログラム，オンライン，2020.9.24，参加人数約20人）

山本幹雄，大学教育とアクセシビリティ，近畿大学工学部 FD（主催者：近畿大学工学部，オンライン，2020.9.11）

山本幹雄，多様性とアクセシビリティ，広島県農林水産局人権問題（主催者：広島県農林水産局，広島県庄原庁舎，広島県，2020.10.14）

山本幹雄，多様性とアクセシビリティ，広島県農林水産局人権問題（主催者：広島県農林水産局，広島県福山第3庁舎，広島県，2020.10.20）

山本幹雄，多様性とアクセシビリティ，広島県農林水産局人権問題（主催者：広島県農林水産局，広島県立総合体育館，広島県，2020.10.26）

山本幹雄，支援の流れと教職員の役割・相談体制，令和2年度障害学生支援実務者育成研修会 基礎編（主催者：日本学生支援機構，オンライン，2020.11.16）

山本幹雄，障害学生支援のための学内ネットワーク構築に関する基本的な考え方とマネジメント，令和2年度障害学生支援実務者育成研修会 応用編（主催者：日本学生支援機構，オンライン，2019.12.09）

研究費・外部資金

Delakorda Kawashima, Tinka (Project leader), Religious education for intercultural

understanding: Exploring class models for fostering self-awareness and engaging with difference (temeljni raziskovalni projekt), JSPS KAKEN (Grant-in-Aid for Early-Career Scientists), 2020.4.1~2024.3.31 (1,700 千円)

Delakorda Kawashima, Tinka (Researcher), Sociološke raziskave in kulturologija pri Znanstvenem inštitutu Filozofske fakultete Univerze v Ljubljani, 2019.1~2024.12

Delakorda Kawashima, Tinka, (Researcher), Azijski jeziki in kulture, Azijske študije, Filozofska fakulteta Univerze v Ljubljani, vodja: red. prof. dr. Jana Rošker, 2019.1~2024.12

河口和也(研究代表者), セクシュアル・マイノリティをめぐる意識の変容と施策に関する研究, 科学研究費補助金 (基盤研究 A, 一般), 2018. 4. 1~2023. 3. 31 (46000 千円)

河本尚枝 (研究代表者), 日系高齢マイノリティの「その人らしい暮らし」を支援するための基礎研究, 科学研究費補助金 (基盤研究 C, 一般), 2018.4.1~2023.3.31 (3900 千円)

金 幸煜 (研究代表者), トランスナショナル企業のイノベーションと組織間マネジメントシステムの適合性の研究, 科学研究費補助金 (基盤研究 C, 一般), 2019. 4 .1~2022. 3. 31 (4160 千円)

金 幸煜 (研究代表者), 日韓企業の組織文化の相違が経営意思決定行動に与える影響, メルコ学術振興財団 (研究助成 A), 2019.7~2021.6 (600 千円)

金 幸煜 (研究分担者), 観光目的地の競争優位性: 訪日客の増加を契機とする DMO マネジャーの役割の変容, 科学研究費補助金 (基盤研究 B, 一般), 研究代表者: 八島雄士 (和歌山大学), 2019. 4. 1~2022. 3. 31 (11310 千円)

北梶陽子 (研究代表者), 多様性の存在する社会における話し合いの共通基盤の形成過程に関する検討, 科学研究費補助金 (若手 B) , 2017.4.1~2021.3.31 (3100 千円)

北梶陽子 (研究代表者), 情報共有 共通の基盤, 科学技術融合振興財団調査研究助成, 2020.3.1~2022.2.28 (660 千円)

森永康子, ジェンダー格差の維持にかかわる心理学的基盤についての検討, 科学研究費補助金 (基盤研究 C, 一般), 2018. 4. 1~2021. 3. 31 (4290 千円)

中島健一郎 (研究代表者), 集団の中での心を感じ取る: 「対集団」における生徒理解とその介入, 科学研究費補助金 (基盤研究 C, 一般), 2018. 4. 1~2022. 3. 31 (4160 千円)

中島健一郎 (研究分担者), 科学研究費補助金 (基盤研究 B, 一般), 社会的排除の生成・維持メカニズムの解明と抑制要因の探求, 研究代表者: 浦 光博 (追手門学院大学), 2020. 4. 1~2024. 3. 31 (17550 千円)

中島健一郎 (研究分担者), 学力テストをいかにして授業改善につなげるか: 阻害要因の検討から学校での実践まで, 科学研究費補助金 (基盤研究 A, 一般), 研究代表者: 植阪友理 (東京大学), 2019. 4. 1~2023. 3. 31 (44850 千円)

中島健一郎 (研究分担者), 学級規模が学力, 学習意欲及び社会性の経年変化に与える影響に関するパネル調査研究, 科学研究費補助金 (基盤研究 A, 一般), 研究代表者: 山森光陽 (国立教育政策研究所), 2017. 4. 1~2022. 3. 31 (37960 千円)

中島健一郎 (研究分担者), ワーキングメモリ理論による発達障害児童生徒の学習・就労支援, 科学研究費補助金 (基盤研究 B, 一般), 研究代表者: 湯澤正通 (広島大学), 2017. 4. 1~2021. 3. 31 (19370 千円)

中島健一郎 (研究分担者), 環境社会課題のオープンチームサイエンスにおける情報非対称性の軽減, 総合地球環境学研究所コアプロジェクト, 研究代表者: 近藤康久 (総合地球環境学研究所), 2018 年度-2020 年度

大池真知子 (研究代表者), アフリカの小説にみる女同士の親密性, 科学研究費補助金 (基盤研究 C, 一般), 2018. 4. 1~2022. 3. 1 (4290 千円)

佐藤洋子 (研究代表者), 「女性活躍」の下での林業における「女の仕事」, 科学研究費補助金 (若手研究), 2020.4.1~2024.3.31 (3900 千円)

新本万里子 (研究代表者), 生理用品の授業によるケガレ観の変容に関する文化人類学的研究, 科学研究費補助金 (基盤研究 C), 2017. 4. 1~2022. 3. 31 (4290 千円)

新本万里子 (研究分担者), パプアニューギニア無医地区におけるヘルスカバレッジ向上に資する医療サービスの解明, 科学研究費補助金 (基盤研究 B), 2019. 4. 1~2022. 3. 31 (17160 千円)

新本万里子 (研究分担者), 生涯を通じたヒト・モノの関係性の生成と変化に関する人類学的研究, 科学研究費補助金 (学術変革領域研究 A), 2020. 11. 19~2025. 3. 31 (38480 千円)

新本万里子 (研究分担者), パプアニューギニアにおける気候変動適応についての文理融合的共同研究, 科学研究費補助金 (挑戦的研究 開拓), 2020. 7. 30~2023. 3. 31 (21,580 千円)

新本万里子 (研究代表者), 月経をめぐる国際開発の影響の比較研究——ジェンダー及び医療化の視点から, 国立民族学博物館・共同研究 (共同研究), 2020.10. 1~2023.3. 31 (2020 年度: 804 千円、2021 年度: 1,140 千円)

恒松直美 (研究代表者), 日本留学での適応と帰国後の再適応が多国籍留学生に与える影響のホリスティックな研究, 科学研究費補助金 (基盤研究 C, 一般), 2017.4.1~2021.3.31 (2080 千円)

山本幹雄 (研究代表者), AICT を活用した合理的配慮の自動化・コモディティ化研究, 科学研究費補助金 (基盤研究 C, 一般), 2020. 4. 1~2023. 3. 31 (2340 千円)

社会連携・賞・その他 (自治体委員・イベントアドバイザー等)

Delakorda Kawashima, Tinka, 異文化理解促進プログラム講師, 広島県地域政策局国際課国際交流グループ, 2020~

Delakorda Kawashima, Tinka, “Reflecting on Traditional Events: Cultural practices and Diversity across Communities” (「ウチとソトから伝統行事を考える: 文化的実践の多様性」). Hiroshima University: The Global Education Course, 2021.1.21

Delakorda Kawashima, Tinka, 「異文化理解促進プログラム」登録講師, コミュニティにおける宗教/宗教に基づくコミュニティ, 加計高校, 2020.10.2~2020.10.9

Delakorda Kawashima, Tinka, 「異文化理解促進プログラム」登録講師, ソト・ウチから伝統行事を考えよう, 加計高校, 2021.1.26

Delakorda Kawashima, Tinka, Editorial Board member and Reviewer Tabula: Journal of the Faculty

of Humanities, Hrčak.

Delakorda Kawashima, Tinka, Reviewer Review of Ecumenical Studies (RES) CEJSH, CNKI Scholar

河本尚枝, 広島市多文化共生推進ネットワーク会議 (委員), 広島市, 2021.3.25

金 幸煜, Steering Committee Member (Asia-Pacific Management Accounting Association)

北梶陽子, 第 14 回 FOST 賞, 公益財団法人科学技術融合振興財団, 2021.3

北梶陽子, 日本シミュレーション&ゲーミング学会理事, 事務局, 編集委員幹事, 中長期タスクフォース
委員兼幹事

森永康子, 日本教育心理学会研究委員会, 2018.4~2021.3

森永康子, 広島県個人情報保護審議会委員, 広島県, 2017.4~2023.3

中村 平, 台湾と広島を結ぶ: 帝国日本の植民地と戦争、平和, 2020 年度広島大学大学院との連携講座 リ
テラ「21 世紀の人文科学」講座「広島から『日本とアジア』を振り返る」, (公財)広島市文化財団 合人社
ウェンディひと・まちプラザ, 2020.12.5

大池真知子, セコヘイ (世界の子どもの平和像をつくる会ヒロシマ) 世話人, 2020. 6~

大池真知子, セコヘイ (世界の子どもの平和像をつくる会ヒロシマ) Body Mapping のファシリテーター,
2020 年度

大池真知子, 広島県看護職員確保対策協議会 委員, 2018. 10. 1~

大池真知子, 『黒人研究』編集委員, 2020. 6~

大池真知子, 寄稿「教えて、人権！——ダイバーシティとインクルージョンについて」, 『広島県人権だ
より』 (主催: 広島県人権男女共同参画課, 2020)

大池真知子, 学生との対談 わが大学の先生と語る「自由になるためのジェンダー」, 『読書のいずみ』
(主催: 全国大学生生活協同組合連合会, 163 号, pp.14-21, 2020. 6)

坂本晶子, 日本学生支援機構令和 2 年度障害学生支援実務者育成研修・技術助言者, オンライン,
2020.4.1-2021.3.31

坂田桐子, 東広島市男女共同参画推進審議会 (会長)

坂田桐子, (株)サーベイリサーチセンターの調査研究事業におけるアドバイザー, リモートヒアリング,
2020. 10. 19

坂田桐子, 東京五輪・パラリンピック組織委員会森喜朗会長の女性に関する発言に関して「社会に残るス
テレオタイプ」についての取材, 朝日新聞 (社会面), 2021. 2. 5

櫻井里穂, インクルーシブ教育、その起源・実践・教員の政策受容実態—ブータンと日本の事例から—,
Unselfish & おせっかい法人 第一回インクルーシブ教育セミナー, 広島市 Unselfish 事務所内,
2020. 10. 9

恒松直美, 異文化理解教育推進プロジェクト指導委員, 広島県立日彰館高等学校, 2020 年度

恒松直美, 「スーパーサイエンスハイスクール」研究協力委員, 広島大学付属高等学校, 2020 年度

恒松直美, 「グローバル・インターンシップ」地域公開国際セミナー, 広島大学, 2020. 11. 13)

恒松直美, HUSA Program 2019 - 2020 「グローバル・リーダーシッププロジェクト」最終発表会 -

“Discover Hiroshima「広島新発見」,” 広島大学, 2020. 7. 16

恒松直美, HUSA Program 2019 - 2020「グローバル・リーダーシッププロジェクト」中間発表会 -

“Discover Hiroshima「広島新発見」,” 広島大学, 2020. 5. 28

山本幹雄, 日本学生支援機構障害学生支援委員会・委員, オンライン, 2021.3.26

山本幹雄, 日本学生支援機構令和 2 年度障害学生支援実務者育成研修企画協力者, オンライン, 2020.4.1-
2021.3.31

山本幹雄, アクセシビリティリーダー育成協議会教育課程・認定試験ワーキング長, オンライン,
2020.4.1-2021.3.31

山本幹雄, アクセシビリティリーダー育成協議会プロモーション・インターンシップ・キャンプワーキング長, オンライン, 2020.4.1-2021.3.31

研究パートナー組織募集

当センターでは、女性の活躍促進や男女共同参画、多文化共生等々の取組を阻害する要因を解明するとともに、取組の効果を向上させる方策を考案し、ダイバーシティ・アンド・インクルージョン推進のための実証研究に取り組んでいます。このような研究を進めるためには、企業をはじめとする民間団体や地方公共団体等の方々の協力が欠かせません。

ダイバーシティ・アンド・インクルージョン推進に関心をお持ちで、共に研究を進めていただける組織の方々を募集しております。

広島大学 ダイバーシティ研究センター
Hiroshima University
Research Center for Diversity and Inclusion

739-8524
広島県東広島市鏡山1-1-1
Tel: +81 82 424 4559
email: diversity-center@hiroshima-u.ac.jp
Web: <https://www.hiroshima-u.ac.jp/diversity>